

講義ユニット名	衛生学		所属科目名	社会医学
講義ユニット 責任者	ふくま しんご 福岡 真悟	所属	疫学・疾病制御学	
講義ユニット コーディネーター	すぎやま あや 杉山 文	所属	疫学・疾病制御学	
授業方法	講義および演習。 各講義についてレポート提出。筆記試験を2回に分けて実施。 実習については、クラスの学生をグループに分け行う。 実習終了後、発表会。実習報告書の提出。			
概 要	【講義および演習】 ○保健統計・健康水準・医学研究デザイン等を習得する。 ○疫学の基本を理解し、その疫学方法論を習得する。 ○感染症発生時の疫学的対処を実例に基づいて提示し、応用力を培う。 ○血液事業および輸血用血液の安全性確保のためのスクリーニングを理解する。 ○種々の慢性疾患の病態の把握や制御方法に関する知識を習得する。 ○国内外の疫学研究、臨床研究について学ぶ。 ○医学統計学を学ぶ ○臨床試験について学ぶ ○医療経済学について学ぶ ○データサイエンスについて学ぶ 【実習】 1. プロトコル実習 ○グループ毎にテーマ（目的・方法・期待される成果）を設定する。 ○実習発表会を公開で行う。 ○実習報告書を作成する。 2. EBM実習 ○論文の情報収集方法、論文の読み方（批判的吟味）について実習する ○論文の活用や臨床へ適用についてディスカッションする 3. 行動経済学実習 ○行動経済学について学ぶ ○グループワーク、発表会			
講義ユニットの 到達目標	○ 医学・医療の歴史的な流れとその意味を概説できる。 ○ 保健、医療に関する国際的課題と日本の課題を理解し、説明できる。 ○ 日本の医療の特徴を理解し、国際社会への貢献の意義を理解している。 ○ 医療に関わる国際協力の重要性を理解し、仕組みを説明できる。 ○ データの適切な要約方法（代表値、広がり、グラフ表現）を説明できる。 ○ 基本的な有意差検定の種類と仮説検定のしくみを説明できる。 ○ 根拠に基づいた医療<EBM>の5つのステップを列挙できる。 ○ Patient, population, problem, intervention (exposure), comparison, outcome <PICO (PECO)>を用いた問題の定式化ができる。 ○ 研究デザイン（観察研究（記述研究、横断研究、症例対照研究、コホート研究）、介入研究（臨床研究、ランダム化比較試験）、システムティックレビュー、メタ分析（メタアナリシス）を概説できる。 ○ 医学研究に必要なサンプルサイズを説明できる。 ○ データベースや二次文献からのエビデンス、診療ガイドラインを検索することができる。 ○ 得られた情報の批判的吟味ができる。 ○ がん検診の推奨の強さを説明できる。 ○ 人口統計（人口静態と人口動態）、疾病・障害の分類・統計（国際疾病分類（International Classification of Diseases <ICD>）等）を説明できる。 ○ 平均寿命、健康寿命を説明できる。 ○ 罹患率と発生割合の違いを説明できる。			

講義ユニットの到達目標	○ 疫学とその応用（疫学の概念、疫学指標（リスク比、リスク差、オッズ比）とその比較（年齢調整率、標準化死亡率(standardized mortality ratio <SMR>))、パイアス・交絡とその制御）を説明できる。 ○ 予防医学（一次、二次、三次予防）と健康保持増進（健康管理の概念・方法、健康診断・診査と事後指導）を概説できる。 ○ 医療における費用対効果分析を説明できる。 ○ 感染症法・食品衛生法の概要と届出義務を説明できる。 ○ 予防接種の意義と現状を説明できる。 ○ 世界の保健・医療問題（母子保健、感染症、非感染性疾患(non-communicable diseases <NCD>)、UHC (Universal Health Coverage)、保健システム（医療制度）、保健関連SDG (Sustainable Development Goals))を概説できる。 ○ 国際保健・医療協力（国際連合(United Nations <UN>)、世界保健機関(World Health Organization <WHO>)、国際労働機関(International Labour Organization <ILO>)、国連合同エイズ計画(The Joint United Nations Programme on HIV/AIDS <UNAIDS>)、世界エイズ・結核・マラリア対策基金(The Global Fund to Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria <GF>)、GAVI アライアンス(The Global Alliance for Vaccines and Immunization <GAVI>)、国際協力機構(Japan International Cooperation Agency <JICA>)、政府開発援助(Official Development Assistance <ODA>)、非政府組織(Non-Governmental Organization <NGO>))を列挙し、概説できる。 ○ 臨床研究、臨床試験、治験を概説できる。 ○ 国際保健・医療協力の現場における文化的な摩擦について、文脈に応じた課題を設定して、解決案を提案できる。 ○ ワクチンによるウイルス感染症予防の原理と問題点を説明できる。 ○ B型・C型肝炎の疫学を説明できる。 ○ 臨床検査の特性（感度、特異度、偽陽性、偽陰性、検査前確率（事前確率）・検査後確率（事後確率）、尤度比、receiver operating characteristic <ROC>曲線）と判定基準（基準値・基準範囲、カットオフ値、パニック値）を説明できる。
講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	講義については3分の2以上の出席を試験の受験要件とする。出席回数の確認方法については授業時にお知らせする。実習については原則全ての出席を試験の受験要件とする。以上の条件を満たさない場合は第2回試験の受験資格を失い、第1回試験の結果は無効となる。
評価項目	到達目標の達成度 （基本的理解と知識の応用）

評価法	試験は2回行う。出題形式はMCQ形式と記述形式の併用とする。 筆記試験における合格基準は次の1)～3)をすべて満たすことを原則とする：1) 第1回試験が50点以上、2) 第2回試験が50点以上、3) 第1回試験と第2回試験の平均が60点以上。ただし、平均点・偏差値を考慮して総合的に最終判断する。 衛生学の成績評価は、下記について総合的に判定する。 ○講義及び実習の出席状況。 ○各講義のレポート(Forms)、演習レポートの提出状況および内容。 ○筆記試験の成績。 ○実習発表の内容、実習報告書の提出状況と内容。 【履修上の注意】 ・他の学生の受講を阻害する行動を取るものについては、受講を制限する場合がある。 ・講義・実習を欠席する場合は、その理由と共に事前に申し出ること。 ・遅刻については、原則、欠席と同様の取り扱いをする。
履修上の注意 アドバイス	○ 衛生学・公衆衛生学の領域のコアカリキュラムに従った知識・技能の習得にとどまらず、医学研究、臨床研究を行う際に必要な疫学基礎・実践・方法論の講義、演習を通じ、疾病制御をめざした研究の実施方法や思考過程を学ぶこと。 ○ 講義・実習の内容および順序は、変更する場合があるので留意すること。 ○ 変更の都度、「もみじ」により連絡をする。 ○ 講義の内容や演習の内容に関する質問は、いつでも受け付けます。
予習・復習への アドバイス	○講義資料をもとに復習すること。
推奨参考書	参考書などは授業の際に提示する。